
Fairy taie 閻の滅龍魔導師

orion

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fairy tale 閻の滅龍魔導師

【NZコード】

N9744X

【作者名】

orion

【あらすじ】

特に書きません最初の回で書きました。

この小説は作者の趣味です不定期更新です気長に待てる人は見て下さい。

第0話その一

俺は今死んだものが行く場所と現世との間の空間に神様といった。神様が言つには俺は間違つて死んだのだ。だから Fairy tail eの世界に行かせてもらえるそうだ。願いを四つかなえさせてくれて俺は

一つ目、身体能力がMAX説明具体的に言つと走れば瞬間移動に見え殴れば拳圧で軽く家が吹っ飛ぶ

二つ目、俺が知つてゐる小説、マンガ、アニメの中の能力、魔法、特技、スキル等使える

三つめ、武器、防具、アクセサリーの創造

四つ目、ドラゴンに拾われ滅龍魔導師になる

というチートな願いをして旅だった。

俺は、今一人の龍がその氣高すぎず賢く生物の絶対王者ドラゴンの長き生涯の最後の姿を見届けていいる一人だ。他には仲良しだったドラゴンが数匹とこの賢龍 ディアボロスが君臨していた森の動物たちが心配そうに見守っていたその時ディアボロスが弱弱しい声で

「お前に教える事はない息子よヒュウー

私がいなくなつたら皮をはぎ爪や牙をとりローブと長いズボンを作れこれで私の加護があ前にかかるだらう、そして鱗を一枚剥ぎ取つてお守りにしてくれ。ときどき思い出してくれよな。ヒュウー」

「そんなこと言つなよ！いつまでも忘れないさ

「そうか、それはよつた

目をつむり、口元が緩んだそして息をしなくなつた。今龍の王、闇

龍 ディアボロスが死んだ。

その生涯約一千年以上全長百メートル余り、体重一t破壊の権化とされた賢龍が死んだ。

龍たちは、最大級の咆哮と涙を流し、獣たちは最大級の敬礼とお辞儀をした。息子話叫んだ。

「父さんんんんんんんんんんん」

森が揺れた、大気は震え、大地は森と共振したこの事人間は知り得ないだらう氣高き龍の王が命を落とした日を皆 ノステンダルムの森災害 と呼んだ息子は父に言われたと通りにローブとズボンを作つた。

「父さんのにおいがする」

父さんが生前言つていてことをお思い出した

『私はもう長くはない私が死んでもしつたことがあつたら、妖精の尻尾というギルドに行きなさい。あそこは良いところだぞつい先日も人間に化けて行つてみたら活氣があつてとても楽しそうだつた。お前と同じくらいの子もいたようだからな』

そうだ、妖精の尻尾に行こう。
父さん行くよ、父さんが話していたギルドへ

第一話

「今日も疲れるな、ライル

「フン、お前が遊びながらやっているからだ」

ライルはハッピーと同じネコだ。

俺は今S級魔導師をやっている。ギルド入会した初日にナツ、グレイ、エルザ、ラクサス、ミラ、ミストガンを倒してしまい毎日クエストをこなしていたら進級試験に呼ばれ合格をしたからだ。（聖十魔導師も）

あ、今原作で言うとルーシーがギルドに入る前日だ。

俺は今日とく明日はS級クエストの受けて活火山の調査をする特に異常は見当たらないがもう一回見まわる！！あれば親父の葬式に参加していただしか……イグニール

「イグニール」

『お前はディアボロスの育てた子ではないか』

「ああ」

『我の息子はどうしている？』

「げんきだよ、町を半壊させる程にね」

『はあ』・我に会つたことは言わいでくれ本来人間とドランゴンは干渉してはいけないのだ

「はいはい、あつそだ最近、火山の魔物が騒がしいんだけど知らないか？』

『それは私が出かけていたからだ明日には治まる』

『なんだ調査するほどのものじゃないんじやん』

俺は依頼主に嘘の報告をして帰つていつた
これでルーシーと会えるかな？

翌日

「なあ、ギル明日いつしょにイグニール探しに行かねえか

「ああ、いいぞ」

「このイベントキタあ

「あら珍しいのねめんどくさがり屋のギルが行くなんて
「//なんならお前も行くか？」

「遠慮しとくわ、けがしそうだから」

「そうか、と言つて頭をなでた

「もう、子どもじゃないんだからやめてよ／＼／＼

「ん、そうか悪かったな」

「もう、悪いなんて思つてない癖に」

「ふふ、わかってるつもりさとは声にださない

「ナツ俺は寝るぞつかれた//報酬」

「は」

「おつ」

「さつきから俺を無視するな――――――――

「スマンライル」

報酬を受け取り

「じやあな、ナツ、//」

主人公設定

名前ギル・ドラグニル

魔法

滅龍魔法

その他多数

称号S級魔導師

滅龍魔導師

聖十大魔道

ギルド 妖精の尻尾

所持金?

武器 ソウルイーター 魂喰らい（太刀）特殊効果その名の通り魂だけを刈り取り肉体は傷つかない攻撃範囲は魂の強さ・量によって決まる（魂とは生命力の俗称なくなると死ぬ）

精霊の靈銃 三連式の銃特殊効果魔力を込める事によつて広範囲に強力な攻撃ができる

防具 黒いロングコート 素材闇龍の毛皮 闇龍の剛毛 闇龍の鱗特殊効果すべての魔法効果半減

黒いシャツ

素材布

白いズボン

素材 オリハルコンを編みこんだ布重三

トン

重り×十

素材 精霊金属 重さ一つ三百キロ

特殊効果三百キロにつき魔法威力が一分の一

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9744x/>

Fairy taie 閻の滅龍魔導師

2011年11月11日02時16分発行